

■発達障害について（3）

今回は、高機能自閉症・アスペルガー症候群等への対応について、ご紹介します。

1 高機能自閉症とは

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されています。

2 アスペルガー症候群とは

対人関係の障害があり、限定した常同的な興味、行動および活動をするという特徴は、自閉症と共通した障害です。アスペルガー症候群（Asperger syndrome）は、明らかな認知の発達、言語発達の遅れを伴いません。

3 ADHDの指導・高機能自閉症等の指導（共通）

- (1) 共感的理解の態度をもち、児童生徒の長所や良さを見つけ、それを大切にした対応を図る。
- (2) 社会生活を営む上で必要な様々な技能を高める（ソーシャルスキルトレーニング）。それらは、ゲーム、競技、ロールプレイ等による方法が有効である。
- (3) 短い言葉で個別的な指示をする。（受け入れやすい情報提示，具体的で理解しやすい情報提示）。
- (4) いじめ，不登校などに対応する。
- (5) 本人自らが障害の行動特性を理解し，その中で課題とその可能な解決法，目標を持つなど対処方法を編み出すよう支援する。
- (6) 校内の支援体制を整える。
- (7) 周囲の子どもへの理解と配慮を推進する。
- (8) 通級指導教室での自信と意欲の回復を図る（スモールステップでの指導等による）。
- (9) 通級指導教室担当者は，在籍学級担任への児童生徒の実態や学習・行動の状況等に関する情報提供や助言をする。
- (10) 医療機関と連携する。

4 高機能自閉症等の指導

- (1) 図形や文字による視覚的情報の理解能力が優れていることを活用する。
- (2) 学習環境を本人に分かりやすく整理し提示する等の構造化する。
- (3) 問題行動への対応では，問題行動は表現方法のひとつとして理解し，それを別の方法で表現することを教える。
- (4) 環境の構造化のアイデアを取り入れること（見通しがもてる工夫や，ケースによっては個別的な指導ができる刺激の少ないコーナーや部屋の活用等）が効果的である。
- (5) 情報の受け入れ方や心情の理解などにおいて，障害のない者とは大きく異なることを踏まえた対応をする。



※ 個々の状態に応じて配慮事項が変わることに注意！

